

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第八十九卷「芸術、文化、言語、文学（二の九）」

人工文明、国家内文明の制作と社会実験（岩崎式文明論、寿羅穂里阿文明）

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第八十九巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、人工文明、国家内文明の制作と社会実験（岩崎式文明論、寿羅穂里阿文明）に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

第三編 三十歳～三十九歳

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

「武蔵幻想邸」全体図

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

「武蔵幻想邸」データ

寿羅穂里阿文明の歴代斎王（陰斎王）の一覧

バーチャル巫女神道（寿羅穂里阿神道）創作ノート

製作メモ（私たちが試みていることリスト）

岩崎純一氏との交流史（岩崎純一氏の言語観・文明史観）

岡山県の近衛兵・陸軍歩兵連隊

寿羅穂里阿文明・神道の起源

【事典】 寿羅穂里阿神道の用語

【事典】 寿羅穂里阿仏教の用語

【事典】 寿羅穂里阿文明の用語の補足

【事典】 岩崎式日本語の新用語の提案

岩崎式言語体系概念の本地垂迹（権現）

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

「武蔵幻想邸」全体図

発達障害者男性及び岩崎純一

二〇一一年八月十四日 作成開始

二〇一二年九月六日 公開

二〇一六年九月十一日 最終更新

別添資料を見よ。

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

「武蔵幻想邸」データ

二〇一二年十二月十四日 起筆

二〇一六年九月十一日 公開

二〇一六年九月十一日 最終更新

別添資料を見よ。

寿羅穂里亜文明の歴代齋王（陰齋王）の一覧

二〇一三年三月二日 起筆

二〇一七年八月十七日 公開

二〇一七年九月三十日 最終更新

別添資料を見よ。

バーチャル巫女神道（寿羅穂里阿神道）創作ノート

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月六日 公開

二〇一七年九月二日 最終更新

【文明設定】 日本国（日本史）内 寿羅穂里阿文明（スラポリヤ・スラフオーリアぶんめい）

【言語設定】 日本語族 岩崎式日本語 巫女神道派 Ⅱ 新生巫女言（しんせいみこのこと）、かむなぎのこと、新やまごことのは、巫女アラヤ、岩崎式巫女精神言語

巫女神道

ここは、岡山県の社家に生まれた現役の（または元）斎の巫女（いつきのみこ）三名が、家業とは別に、神道、日本史、人工言語の研究用に運営する、バーチャル巫女神道のサイトです。おもに岩崎純一氏ご考案の仏教哲学的的人工言語「岩崎式日本語」を巫女神道から解釈します。

(by 吉備の斎の巫女、神代の巫女、つくりつくり姫)

きっかけは、岩崎純一氏の『巫女神道探訪記』をご覧ください。『巫女神道探訪記』

岩崎氏のサイトコンテンツには、巫女として以外にも色々なニックネームで協力・活動しています。

* 岩崎式言語体系ペディア（全見出し項目あり）

* 岩崎式日本語の議論ノート

製作メモ（私たちが試みていることリスト）

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年九月六日 公開

二〇一七年九月六日 最終更新

（二〇一八年七月十五日追記…現在、リンク先の岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

ここは、岡山県の社家に生まれた現役の（または元）斎の巫女（いつきのみこ）三名が、家業とは別に、神道、日本史、人工言語の研究用に運営する、バーチャル巫女神道のサイトです。

ただし、バーチャルと言っても、実際の中身は以下のような試みで、研究結果は私たちの現実の巫女神道にも生かす計画です。

寿羅穂里亜文明の神話と歴史は架空のもですが、私たち現実の巫女が岩崎純一氏とともに、私たちの社家に伝わる伝承や岩崎式言語体系をもとに創り出しています。私たちの社家の伝承は真偽が混じっていると思われませんが、岩崎式言語体系とは、実在する岩崎氏が本場に暴力被害者・精神障害者や巫女のために考案してきた人工言語です。さまざまな暴力被害女性・精神障害女性や巫女たちが被害記録や日記に用いてきた秘密言語と言えます。

この言語体系や岩崎氏の思想・哲学に取り組むことは、精神的にも肉体的にもハードですので、私たち巫女の立場から申し上げるとすれば、心身にある程度の余裕や自信のある時期に近づくことをおすすめします。

【私たちが試みていることリスト】

* バーチャル巫女神道を創作し、仮想の巫女神道・宗教や仮想文明が本物の日本社会・日本史の中でどのように展開していくかを観察します。あえて言えば、『古事記』・『日本書紀』の神話や、それらに書かれていない私たちの社家の伝承も、創作・脚色を含んだバーチャル日本史であるように、私たちのバーチャル巫女神道も、『記紀』神話や社家の伝承を作るように作ってみるものとします。

（私たちの社家では、これらの史書は、当時の大国であった唐に対して日本史を古く大きく見せるための史書として書かれたもので、大和朝廷が日本の民を騙すためのものではなかったと解釈していません。）

* それにあたり、私たちを実際にご訪問下さった県内出身の多方面の在野研究者、岩崎純一氏が考案している人工言語「岩崎式日本語」と仮想文明「寿羅穂里阿文明」を基盤に、「寿羅穂里阿神道」（すらぼりやしんとう）という巫女神道として創作します。

この言語と文明は、岩崎氏の言葉では「東洋的アニミズム」や「日本的実存」を柱としており、私たちの「巫女神道精神」と重なるからです。この文明における齋の巫女の託宣の言葉が岩崎式日本語であると設定します。岩崎氏の共感覚、知覚論、精神病理論、哲学、和歌、言語学を取り入れ、私たちの現実の巫女神道を母体に巫女神道を研究しようという試みです。

* 「岩崎式日本語」は、もとは「寿羅穂里阿」という名前であり

（文明の名前の起源）、本来は現実の精神障害者や共感覚者のために創作された人工言語で、とくに転換性障害・身体化障害・解離性障害の女性に好まれ、日記や性被害・暴力被害記録のメモに偏って使われてきました。

私たちが社家伝承の巫女舞を一定の旋回パターンで舞ったときや託宣したときに脳と体に起きている変性意識・心身状態も、大学などの研究機関での調査によると、精神障害と似たような転換性、身体化、カタプレキシー、カタレプシーの現象であると説明されました。ただ、私たちのものは自己催眠によってコントロールできる（症状から意図的に離脱できる）技術である点で異なっていました。

（神道の奥義を体感としてご存知ない大学の先生方の前で舞を舞い、しかも秘儀・秘事の部分を隠して舞ったため、気が散って完全な神託状態になれませんでしたので、不満ですが。）

このことから、私たち巫女神道の側からは、医学診断上で精神障害の女性の感覚や意識の変容と、私たちが現実に齋の巫女（家業）として巫女舞、託宣、託宣和歌、神剣の儀、水中神事などの祭祀・神事をしているときに起きる感覚や意識の変容の共通点と相違点を、岩崎氏にうまく説明し、岩崎純一氏の側からも巫女神道の心を「岩崎式日本語」の概念や文法、「寿羅穂里阿文明」に取り入れていただく計画です。

* とくに、岩崎氏がこのような自然法則があると述べていらっしやる人間（自我）の世界認識方法の全体に、私たちが伝承する巫女

神道の考え方を当てはめてみる作業を行います。

岩崎氏の言語学理論・哲学・思想には、ご専門の難解な仏教用語、精神病理学用語、数理論理学・超数学用語が多く、ほとんどの精神障害女性たちがついていけなくなった今、私たち巫女としては、いっそのこと神道用語に変換する試みもしたいからです。

私たちはこの作業を「岩崎氏の世界（岩崎式日本語）の本地垂迹」と呼んでいます。事実上、神仏習合の実験と観察だからです。仮想の神道ではありますが、斎の巫女としての私たちの実生活にも生かしています。

寿羅穂里阿神道というより、寿羅穂里阿文明の用語や概念として、すでに岩崎式日本語をご使用の精神障害女性の皆さまが創作・提案していたものは、岩崎式言語体系ペディアに載っています。とくに、学校制度や鉄道など近現代的な概念が多いです。

反対に、いつもは岩崎式日本語の難解な仏教用語を神道用語に翻訳（本地垂迹）してきた私たち巫女神道側が、岩崎氏と岩崎式日本語・寿羅穂里阿文明に仏教用語と概念を提案する試みも行っています。これらも、寿羅穂里阿神道と同じく、寿羅穂里阿文明の中で展開される寿羅穂里阿仏教の用語と概念という設定になっています。

* また、岩崎氏ご自身がお持ちの感覚能力や、一部の発達障害者の方々がお持ちの感覚能力（とくに天災を共感覚で察知する能力や、女性の身体現象がわかる対女性共感覚、文字を色で読む感覚）も、私たちの巫女舞で得られる共感覚と共通点があり（地震察知ができ

たり、人の身体・生理現象や死期がその周りの空気の色や味や匂いでわかるときがあつて心が苦しむ）、これまでにたくさんの議論を交わしてきましたが、引き続き議論を交わします。

* そして、実際に巫女神楽を舞い、私たちが「神託」・「託宣」と呼んでいる言霊現象（霊山や磐座の神々が声を告げたと感じる自覚）が「岩崎式日本語」によつても可能かを確かめます。つまり、「岩崎式日本語」が、岩崎氏の主張どおり、人間の深層意識や日本人のアニミズム的霊魂信仰を正しく反映できているかを検証します。

* 私たちの託宣和歌や岩崎氏がお詠みの和歌そのもの、歌道・歌学についても、研究します。

* 『岩崎式日本語大全』や「岩崎式言語体系ペディア」に書かれていることは、基本的に私たちの寿羅穂里阿神道も取り入れることとします。

* 私たち巫女メンバーが岡山県出身で、岩崎氏も県内の教育者・曹洞宗・軍人（近衛兵・陸軍将校）の家系ご出身（現在は東京都ご在住）でいらつしやるので、古代吉備王国（岡山県、広島県東部、兵庫県西部）の話題が多くなっていますが、全国の斎の巫女の方々の交流も行っていきたいと思えます。

* 現代に残る巫女神道を整理・把握します。とくに、私たちが伝承する神別（天孫・地祇）系巫女神道（現皇統・皇別系巫女神道とは血縁がないとされます）と、現皇統の巫女神道や、下記の耀姫様をはじめとする斎皇家の皇別系巫女神道との共通点と相違点を、比較研究します。

* 私たちの社家が現実に伝承し執り行っている巫女神道の秘儀・秘事の思想と、岡山県内で現実に盛んな教派神道系新宗教教団（金光教、黒住教、ほんぶしん、神習教など）や神道天行居などの神道霊学・秘境神道・神秘科学系の神道結社の思想とが、どうして異なると感じるのか、どこが違うのかなどを、バーチャル巫女神道を使ってまじめに研究します。

* 私たちは、県内の教派神道系教団（金光教、黒住教、ほんぶしん、神習教など）とは関係のない斎の巫女の社家です。

* また、私たちは、ヲシテ文献や竹内文書などの史書、カタカムナ文字や阿比留草文字などの神代文字のほとんどについては、極めて懐疑的または慎重な姿勢を持っており、偽書や偽作であると考えています。私たちが取り組んでいる人工言語の岩崎式日本語や人工世界の寿羅穂里阿文明・寿羅穂里阿神道は、現実の私たちの巫女神道や自然言語を研究するために創作している言語・文明・宗教と位置付けているもので、いわゆる偽書や偽作とは異なりますので、ご注意ください。

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「神道・仏教研究」

<http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/>

上記内「巫女神道の比較表」

<http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-shinto.htm>

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「精神病理学・精神疾患研究」

<http://iwasakijunichi.net/seishin/>

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「岩崎式日本語」・「寿羅穂里阿文明」

http://iwasakijunichi.net/iwasaki_shiki_nihongo/

岩崎式言語体系ペディア

<http://iwasakijunichi.net/isrelangs-pedia/>

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「郷土（岡山県）研究」

<http://iwasakijunichi.net/okayama/>

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「和歌・古典」

<http://iwasakijunichi.net/waka/>

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「伝統和歌の会 余情会」
<http://iwasakijunichi.net/yoseikai/>

上記内『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』
http://iwasakijunichi.net/ronbun_ippan/kado.htm

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「岩崎純一の共感覚記憶ラー
タビース」

<http://iwasakijunichi.net/synaesthesia-database/>

耀姫の日記

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/

Twitter 耀姫 (あかるひめ) @AkaTamaYoriHime
<https://twitter.com/AkaTamaYoriHime>

Yahoo 知恵袋 (akatamayorihime よひめ)

<https://chiebukuro.yahoo.co.jp/my/akatamayorihime>

天照神宮

<https://sites.google.com/site/tenshoujinguu/>

耀姫 生得知識 研究所

<https://sites.google.com/site/akatamayorihime/>

Google+ 耀姫あかるひめ (画像集)

<https://plus.google.com/105395575899086027677>

岩崎純一氏との交流史 (岩崎純一氏の言語観・文明史観)

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十一日 公開

二〇一七年八月十一日 最終更新

岩崎式日本語と寿羅穂里阿文明は、ほかのページにも書いていますが、もとは岩崎純一氏が精神障害者や共感覚者のために生み出した芸術作品のようなものです。文明よりも言語のほうが先に誕生し、言語の名前が「寿羅穂里阿(スラポリヤ、スラフオーリア)」でした。比較的早いうちから転換性障害・身体化障害・解離性障害の女性に好まれ、日記や性被害・暴力被害記録のメモに偏って使われてきました。

自閉症男性などにも親和性の高い言語のようですが、岩崎氏によると、自閉症男性は岩崎式日本語に限らず、まず母語の日本語に障

害があるので、言語能力を保ったまま転換性や身体化の症状を引き起こす女性にばかりこの言語が通用するのだと分析されています。

岩崎氏が自身も、文字や音や人間・動物に対する鋭い共感覚や感性をお持ちです。その世界を探究なさるうち、二〇〇四年から現在までに、暴力被害・性被害などでの心理的ストレスで脳の構造とはたらきが物理的に変化して共感覚や精神・言語障害や巫女的能力が生じた女性や、私たちのように巫女舞や神託の祭祀で同様の心身状態を自己催眠で誘発できる斎の巫女などに、二百名近くお会いになっています。

私たちへのご訪問以降のお話については、岩崎氏のサイトの『巫女神道探訪記』に詳しく載っています。（議論交換ノートのネット用改訂版）

もともと二〇一〇年までの段階では、岩崎純一氏も、初めから原始巫女神道文明を創作し、その架空の人々が第一期岩崎式日本語（寿羅穂里阿）を話しているという設定になさるつもりだったようです。しかし、私たち巫女の目から見ると、いろいろな学問にお詳しい岩崎氏の孤高で孤独な頭脳がよくも悪くも災いして、言語理論制作が先行し、岩崎式日本語は岩崎氏の手によって仏教哲学的・言語学的・数理論理的な難解さを持つ姿になりました。

これは、あとにも書きますように、岩崎氏のいつもの優しさとはまた違った、よい意味での持ち前の知的な方向性だと思っております。どうしても最後にはいつも、使用者の私生活への寄り添いを超えて、学問体系を志向なさる傾向があると思います。

そのため、せっかく岩崎氏の考え方・ブログや共感覚などの感覚的な世界に親しんでいた社交不安障害、転換性障害、身体化障害、解離性障害、PTSDなどの女性の皆さまが、かなり早い段階で岩崎氏の頭脳にまったくついて行けなくなってしまう。何人かの女性は、日記をそっくりそのまま岩崎氏に預けたりあげたりしてしまいました。つまり、途中で精神障害女性に取材なさったり巫女神道をご訪問下さったりした岩崎氏の労力は何だったのだろうか、お一人で好きなだけ学問の世界に浸っていらっしゃる方がお気楽なのでは、ということになるわけです。

そのあたりの根本的な頭脳のあり方や目指す方向性の違い（見ている世界、考えていることの圧倒的な差）についての事情は、まだ解決がっていないですが、一応、幼い頃から古語や神道・哲学系に親しんでいて、岩崎氏がお持ちの共感覚と似た感覚世界（とくに人の身体現象や自然現象を巫女舞と託宣で言い当てる能力）も持っている斎の巫女の私たちとしては、巫女神道の立場から岩崎氏に協力、提案、批評などをしていくことにしました。

具体的には、岩崎氏に対し、私たちの巫女神道の要素を岩崎式日本語と寿羅穂里阿文明に取り入れていただくことを提案しており、現在は私たちがおもに寿羅穂里阿文明とその神道の創作を担うようになっています。

私たち斎の巫女としては、岩崎氏の岩崎式日本語の排他的な難解さは、岩崎氏が根本的に持ち合わせている人間へのまなざしの優しさで厳しき、アニミズム的神道精神が基盤となっていると感じてい

て、「人類が生み出してきた自然言語が自然界においてどのような姿を示しているか」「人類やその自我・自己とは何か」「神道や宇宙とは何か」に迫るものだと理解しています。私たちの難しい概念で申しますと、とくに神別系巫女神道が継承する精神に親和性が高いと感じています。

私たちとしては、岩崎氏の二冊のご著書の文章よりも、『岩崎式日本語大全』やサイト・ブログの文章のほうが、岩崎氏らしさが表れたよい文章だと感じています。ただ、このご著書とネットの両方がきっかけとなって、精神障害女性のシェアハウスや私たち巫女の世界と岩崎氏とがつながったため、どちらも必要な試みだと思っております。

二〇一一年に、人工言語としての寿羅穂里阿（現在の岩崎式日本語）の名称変更の動きがありました。巫女や精神障害・神経症性障害・共感覚の女性による秘密言語としての使用が多いというこの言語の偏った特徴（原作者への個人的信頼による使用に偏っている現状）を示すため、あえて原作者の岩崎氏の名を入れることなどが提案されました。

五月十九日時点で、以下の名称候補が寄せられました。私たちを含む巫女たちからは「巫女」「かむなぎ」「やまとことのは」といった神道用語や大和言葉、岩崎氏からは「哲学言語」や岩崎氏が取り入れた井筒俊彦の「言語アラヤ識」などの語を入れることが提案されましたが、最終的に、転換性障害や解離性障害の女性たちの意見により、作者名のみを入れた「岩崎式日本語」に決定したわけです。

ただし、私たち巫女は、★マークの名称を中心に、今でも色々な名称を使っています。

新日本語

新日本感性言語

岩崎哲学言語

岩崎日本語

新生巫女言（しんせいみこのこと）★

かむなぎのこと★

純正日本語言語

新日本哲学言語

純日本岩崎日本語

新やまとことのは★

巫女アラヤ★

真正日本語

岩崎式巫女精神言語★

岩崎式言語アラヤ識新日本語

純一日本語（これのみ九月六日に追加）

ニコニコ大百科

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%B2%A9%E5%B4%8E%E5%BC%8F>

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%B2%A9%E5%B4%8E%E5%BC%8F>

人工言語としての「寿羅穂里阿」の「岩崎式日本語」への名称の変更の際もそうでしたが、先ほども書きましたように、一般の使用である精神障害女性からは、「どうしてそんなに、いつもいつも難しい用語や概念を駆使して言語や文明を創り出そうとするのでしょうか」というのが、岩崎氏批判としては一番多いです。もとの精神障害が軽くなっても、岩崎氏の難解な学問と思考について行けなくなつて疲労する女性がとても多いです。

ただ、私たち齋の巫女神道から見ますと、岩崎氏は術学的（難解な学問をひけらかす姿勢）ではなくて、根本的に頭脳や五感が通常よりも逸脱したところにある人なのだと思います。

これは、私たちが巫女神楽や神託の秘儀をした際にも起きる現象です。私たちの場合、ある一定のパターンで舞ったり託宣和歌を詠んだりすると、物事の閃き能力や計算能力が異様に上がって私たちが「神懸り」や「憑依」と呼んでいる状態になり、磐座や山や風の音が私たちが「神託」や「言霊」と呼んでいるものに聞こえ、世の中が遅く見えるようになるという形で表れます。これは、大学での調査で、転換性障害や身体化障害、解離性障害に近いが、それらそのものではない「自己催眠現象」と分析されています。

お隣の兵庫県の齋の巫女である耀姫様は、「脳のリミッター外し」と表現なさっています。学者によっては、「ZONE（ゾーン）」と呼ぶ人もいます。岩崎氏は、私たちへのご訪問の際、「自分で自分の籠（たが）を外すことができる」「ルービックキューブやジグソーパズ

ルを猛スピードで解ける自閉症者やサヴァン症候群の方と自分は似ている」という言葉で表現されました。（『巫女神道探訪記』をご覧ください。）

岩崎氏が、漢字数千字を色や味や匂いで記憶していたり、私たち巫女の託宣に引っかけからずに、逆に私たちの身体・生理現象を見抜いたりして男性神職が驚いたのも、岩崎氏自身がそのような能力の持ち主（男性の巫女である「覲（おかんなぎ）」であるからだと私たちは分析しています）。

本来、男性の場合、修験道などの修行をしないとそのような能力は身につかないのですが、稀に訓練なく能力を引き出せる方がいて、岩崎氏もそのお一人と思われれます。努力がないという意味ではなく、それはそれで大変な苦勞があると思います。

見かけ上は、岩崎氏の世界観に憧れていると交流を積み重ねても、岩崎氏がどこか遠くの天才的な別世界へ行ってしまう、岩崎氏のほうから突っぱねられているように感じている精神障害女性がいらつしやるのも、無理はないと思います。もちろん、そこにはいろいろな感情模様がありました。しかし、岩崎氏のほうも、女性の皆さまに申し訳ないことをしていると思つていらつしやるわけですから、別に加害・被害の関係ではあり得ないのです。

それに、二〇一三年に別の人工言語作者が元妻に対する殺人未遂事件を起こして、同じようなストーリーカー殺人未遂の被害者でもある岩崎式日本語の使用者の女性たちが恐がり、岩崎氏に岩崎式日本語の公開自粛を求めたときも、岩崎氏は人工言語界に「困っている精

「神障害者たちがいる」と問題提起はしたものの、大全などはサイトに載せたままでした。そのことも、精神障害女性たちにとっては少し不満だったかもしれません。ただ、結果的には精神障害女性の岩崎氏への要求がやや大げさだったのではないかと、私たち巫女は思っています。

岩崎氏の姿勢がすぐ開放的で社会的になるわけがなく、これからも高度な秘伝言語としての妖しさを持たせるように動くとは思いませんが、私たちとしては巫女神道の立場からゆっくり見守りたいと思います。

その後も、岩崎氏の精神障害女性や私たち巫女へのフィードバックは続きましたが、お互いの心身と学問上の疲労もあり、管理部門（岩崎氏、私たち巫女の一部）と使用部門（一般の精神障害女性の皆さま）の別れと再会が何度か繰り返されました。

だから結局、東京藝術大学の学生さんである関根ひかりさんのように、精神障害がなくお名前を出せる方が、論文や芸術評論の形で（岩崎式言語体系の難しい中身ではなく）岩崎氏という人間そのものを論じるのが、一番スムーズかも知れません。

今も岩崎式日本語や岩崎氏の思想は、仏教哲学化や数理論理学化（直観論理・フアジイ論理にも接近）を見せています。ただ一方で、岩崎氏の和歌の歌風は、妖艶なアニミズムと言つてよいもので、これらの精神障害女性や私たち巫女から「魔術的リアリズム」とまで呼ばれています。岩崎氏の和歌の妖艶さと岩崎式日本語の理論的な難解さという、一見両極端な世界を、なんとか結びつけて理解した

いと願う方は多いようです。

岡山県の近衛兵・陸軍歩兵連隊

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月六日 公開

二〇一七年八月六日 最終更新

（二〇一八年七月十五日追記…現在、リンク先の岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

岡山県の神道家系からは、当時まだ古代吉備王国戦士（吉備津彦など）による天皇への靈験・神験（神懸りのな戦勝をもたらす効果）を信じていた帝国政府や日本軍大本営により、多くの男系男子が近衛兵に徴用されました。また、陸軍歩兵第十連隊という名部隊にも、岡山県の名家の男子が採られていきました。

ただし、岩崎氏は、父系・母系いずれも仏教系（曹洞宗中心）のご家系でありながら、靈験・神験灼かな血統と見られたためか、近衛兵と歩兵第十連隊に徴用されています。一方で、私たちの家は、女系の巫女の家ですから、巫女を禁断とする国学や巫女禁断令の意識を継承する政府や大本営から見ても、なんらかの抵抗感があつたのか、ほとんど手を出されませんでした。

私たちが俗名で協力させていただいている岩崎純一氏の郷土（岡山県）研究サイトは、以下です。私たちは岩崎氏とともに、このような吉備岡山に対する国の扱いについても追っています。

岩崎純一のウェブサイト内 特設サイト「郷土（岡山県）研究」
（私たちが協力させていただいている戦史資料などあります。）

<http://iwasakijunichi.net/okayama/>

寿羅穂里阿文明・神道の起源

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十六日 公開

二〇一七年九月二日 最終更新

岩崎純一氏によって現実に（実用のために）考案された、精神障害女性や私たち巫女が使う人工言語「岩崎式日本語」については、ほかのいろいろなページで説明しました。

ここでは、その岩崎式日本語を母語とする架空の人々が暮らす文明「寿羅穂里阿文明」（基礎は岩崎氏が創作）の中で、私たち現実の巫女が岩崎氏のご許可を得て創作している「寿羅穂里阿神道」の歴史、神話、そして、現実の日本史や日本神道とのかかわりについて

述べます。

寿羅穂里阿文明は、現実の日本の縄文時代のムラ社会の一つとして始まったと設定します。人々は原始アニミズム・原始神道に生きていたとの設定です。

（イメージ画像は、サイトをご覧ください。）

寿羅穂里阿人は、のちの大和言葉と言語学的に同語族の言葉（「寿羅穂里阿」第一期岩崎式日本語）を話したとされますが、固有語も多かったとされます。現存する固有語は、考案者の岩崎氏のサイトの言語体系ペディアをご覧ください。

「寿羅穂里阿」は、岩崎氏によると「壮大な（スラ）血脈（ポリヤ）」「森羅万象、天地万物」を意味する「スラポリヤ（スラフォーリア）」の音写であるとされます。「スラフォーリア」と長音で発音するのは、サンスクリットを話すインドの仏教系教養のある僧侶たちや古代多神教イスラエルの言語を話す人々が、極東の地のこの文明を目撃し、聞いた際のものとしてされています。のちの大和言葉と同様、寿羅穂里阿の人々は、まだ「ハ行」を「パ行」で発音しており、「フア行」への変化もほとんど起きていません。このことは、別に説明した「岩崎の法則」からも導かれます。

「ス」に「寿」を当てたのは、「寿ぎ（言祝ぎ）」ことほぎの意であると同時に、大陸・朝鮮半島・台湾の道教において死者に着せる「寿衣（すい）」から取ったとされ、弥生渡来人に限らず、縄文時代にも定期的に半島民が流入して道教を伝えていたとする岩崎氏の考えを反映しています。

「羅」は、美しい絹織物・衣服の意で、巫女が神楽や託宣の際に着る装束を指しています。「穂」と「里」は五穀豊穡の人里を表します。「阿」は、巫女の住まいのひさしや軒を表したとも考えられますが、託宣時の神々への声かけの音であると考えられる、との設定です。

従って、「寿羅穂里阿」は、「何人もの斎の巫女が美しい死に装束を着てきた（何代にもわたって営まれている）、五穀豊穡の人里で今日も巫女が舞を舞って託宣の言葉を話す原始神道文明」の意味を含んでいることとなります。これはすべて、岩崎氏が岩崎式日本語を設計された段階で、巫女神道を中心とする文明を生み出すために張っておいた伏線だと思います。

この文明では、漢風名称で「陰齋王（いんさいおう）」、国風名称で「陰の斎の巫女（かげのいつきのみこ）」と呼ばれる巫女の代表者（女系女子）が巫女舞・憑依と岩崎式日本語による託宣を担う原始巫女神道が行われており、この陰の斎王制度は、男系男子による象徴天皇制を採用する日本国憲法と皇室典範の陰で現在も続いていると、私たちは仮定します。陰齋王には、死後に生前の呼び名と同じ国風諡号が送られることになっており、戦後は一貫して「神穂里（かんばんざと）」の諡号が送られています。

（歴代陰齋王の一覧は、サイトをご覧下さい。）

現皇統が男系男子（明治以降は天皇自身も内掌典も神託・神懸りの儀式を継承しない）の世襲制であるのに対し、女系女子が神託・神懸りの儀式の教育を斎の巫女である祖母や母親から受けて斎の巫女となる世襲の巫女の家は、今でも日本神話上の葦原中国とされる

地域（＝現在の吉備・岡山県を中心とする中国地方や播磨・兵庫県）にて存続しており、総社市を中心とする私たちもその一族の一つです。

このあたりの議論は、岩崎氏が私たちを訪れて下さった際の記録『巫女神道探訪記』に載せていただきましたので、氏のサイトをご覧下さい。

現実の『古事記』や『日本書紀』は、書物は現存しながら内容は真偽が混ざっていて創作・脚色が多いのと同じで、私たちの寿羅穂里阿文明・神道も、現実の『岩崎式日本語大全』を事実上の神典として創作します。聖書やコーランのような「正典」「聖典」は神道には存在しませんから、寿羅穂里阿神道における『岩崎式日本語大全』もアニメ・ゲームにおける神典であり、バイブルと呼ぶべき性質のものではありません。また、私たちの社家に伝わる神話を文明に取り入れながら、そこに私たち独自の創作神話も溶け込ませていく予定です。

現実の日本や日本神道と寿羅穂里阿文明・神道との現在までの仮想の衝突・融和過程には、さまざまな要素がありますが、現実の日本や日本神道と現実の神別系巫女神道との間に起きた衝突・融和過程をモデルとして創作しています。

たとえば、現実の弥生時代の渡来人と土着の縄文人との衝突・融和の時期には、寿羅穂里阿人とそれら（のちの）日本人との間に同じようなことが起きたと設定しています。また、近代の神道国教化・国家神道・巫女禁断令や戦後の CHQ による神道指令、政府・神社

本庁・その他の単立宗教法人による皇室神道・神社神道の最層によつて巫女神道が壊滅的になつていく現実の過程も、私たちは現日本国と寿羅穂里阿巫女神道との間で仮想的に再現しています。

現実の皇別系巫女神道（日の巫女の王家など）や、現実の内掌典（斎の巫女ではない、天皇の私的使用人制度）と、現実の私たちの神別系巫女神道との間には、衝突というほどの重大なトラブルは日本史上で発生しませんでした。寿羅穂里阿巫女神道は、巫女神道の中では私たちが継承する神別系巫女神道をモデルとしています。このあたりのことも、発想のきっかけとなつた岩崎氏の『巫女神道探訪記』が詳しいでしょう。

【事典】寿羅穂里阿神道の用語

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十四日 公開

二〇一七年九月四日 最終更新

寿羅穂里阿神道

岩崎純一氏が考案した人工言語「岩崎式日本語」によつて託宣す

る巫女集団を有する、仮想文明「寿羅穂里阿文明」で展開される巫女神道。現実の私たちの社家の女系女子による神別系巫女神道を母体として創作しています。私たちの巫女神道は、現実世界でも、現皇統（男系男子）や皇別系巫女神道（女系女子が継承していますが、神社本庁所轄の大規模神宮・神社の巫女がほとんどです）とは異なる特徴（神話や祭祀）を継承していますが、それらが寿羅穂里阿神道でも行われていると設定しています。

岩崎式言語体系の本地垂迹（ほんちすいじやく）

岩崎式日本語は、今では大変難しい仏教哲学や超数学的思想を取り入れており、使用者の精神障害女性たちも岩崎氏についていけなくなっています。

私たち巫女の立場としては、岩崎氏が展開する雄々しい仏教哲学と、私たちの女性生活の要である巫女神道という対比をうまくとらえた上で、両者を融合することに、とても惹かれます。

とくに、私たちの社家の神道に岩崎氏の言語観・文明観を取り入れるにあたり、日本史上で現実に起きた神仏習合思想、とくに「日本の神々は、本地である仏教概念（仏たち）が顕現したもの」とする本地垂迹説にならつて、「岩崎氏の思想（本地）を私たちの神道用語に顕現させる」という立場をとることにしました。

つまり、岩崎氏が生み出した文法用語や概念を、神道用語でも表現するという作業をしています。私たちが伝承する巫女神道に岩崎

氏の言語学を当てはめたわけではないため、ここでは反本地垂迹の考えはとっていません。

人称遍在巫女神体道（にんしょうへんざいみこ・しんたいどう）

岩崎式日本語の基本的な思想は、岩崎純一氏のアニミズム的発想（人称代名詞批判Ⅱ自我の遍在）であり、これを私たちの寿羅穗里阿神道も継承します。「私たちの巫女神道は人称の遍在を生きる神体道である」ことを示す、私たちの側からの「寿羅穗里阿神道」の別称です。

岩崎式言挙秘伝（いわさきしきことあげひでん）

岩崎式言語体系の根幹は『第四期岩崎式日本語大全』とその別添資料や続編に書かれています。これら自体が、一般の日本人にとっては難解で、まるで秘伝書のように感じられるようになっていきます。

このことから、スサノヲなどの男神やヤマトタケルなどの英雄、柿本人麻呂などの男性歌人の「言挙げ」（「教義・奥義をわざわざ言葉で解説すること」を意味する私たちの神道用語）から取って、「岩崎氏が岩崎式言語体系を解説しても事実上、一部の巫女や精神障害女性にしか通じない秘伝のままである」という特徴を表したものです。

また、岩崎氏の仏教哲学的・言語学的解説は極めて難解なので、神道・仏教などの宗教教義に触れて育ってきた私たち巫女はともかく、精神障害女性の皆さまへの解説の際に、行き過ぎた「言挙げ」にならないようにしてほしいという岩崎氏への要望も含まれています。

陰齋王（いんさいおう）、陰の齋の巫女（かげのいつきのみこ）

寿羅穗里阿神道の齋王。日本史上の断絶した伊勢の齋王（齋宮）と賀茂の齋王（齋院）と、現存する日の巫女の齋皇に対して、日の当たらない陰の（仮想の）齋王であるとの意です。

歴代の陰齋王の一覧は、岩崎氏のサイトに掲載されています。岩崎氏と私たちが調査している巫女神道家系についても、岩崎氏のサイトの「巫女神道の比較表」をご覧ください。

寿羅穗里阿まほろば（まほらば、まほらま、まほら）

仮想文明「寿羅穗里阿文明」とそれが展開される土地「寿羅穗里阿」が美しく居心地のよい世界であることを、『古事記』などの日本神話の「大和まほろば」にならって述べたもの。

寿羅穗里阿権現（すらぼりやごんげん）

寿羅穂里阿神道における神々の神号の一つ。日本の神々を仏教の仏や菩薩が仮の姿で現れたものとする本地垂迹思想にならない、寿羅穂里阿の神々も仏教や寿羅穂里阿仏教の仏や菩薩の垂迹であると感じたときの神号です。

とくに、この権現は、寿羅穂里阿文明の文明語かつ寿羅穂里阿神道の託宣言語である岩崎式日本語の言挙げによつて起きるとされません。

寿羅穂里阿巫女神楽（巫女舞）

寿羅穂里阿神道において巫女が舞う神楽。おおむね現実の日本の巫女神楽と同様の成り立ちと歴史を持つが、寿羅穂里阿神道においては、陰齋王をはじめとする巫女は、現実の近代日本のほとんどの巫女（一部の齋の巫女を除く）が失った、巫女舞による神懸り体験（現代精神病理学において転換性障害や憑依障害、身体化障害として診断される知覚・認識様態）を持つと設定されています。

巫女神道を断罪する国学の発展を受けて、巫女による神懸り神事・神託全般を禁止した明治9年の巫女禁断令に対しては、陰齋王をはじめとする寿羅穂里阿の巫女たちは、「舞返（まひがへし）」と呼ばれる巫女舞を秘かに伝承することで巫女神道を守つたと設定されています。この時期の陰齋王は、「舞返陰齋王」を名乗っています。

スラマナ（寿羅マナ）、スラヒ（寿羅霊）、スラタマ（寿羅魂）

太平洋の島嶼地域や上代日本の原始的な多神教で見られる、超自然的な魔力を指す言葉である「マナ」を借用し、寿羅穂里阿神道においても同様に定義したものです。

現実の日本においては、高度な科学の発展にもかかわらず、マナが「お守りによる祈願」や「数字の4や9を避ける行動」といった俗的な神道精神の中で理解されているのに対して、寿羅穂里阿文明の人々においては、マナはスラマナ（アニミズムとしての壮大な霊性）として正しく理解されており、科学的知見に一致すると認識されている、と私たちは想定しています。

たとえば、岩崎式日本語とこの文明の原作者である岩崎氏や、私たち齋の巫女には、「人の周りの空気の色や匂いや味でその人の死期がわかる」共感覚があり、東京大学などの研究機関での検証実験に参加した経験もありますが、これも相手の身体から発出する微妙な化学物質の探知能力に長けている「最先端の科学者体質」であるというだけだと、寿羅穂里阿神道・仏教においては理解します。

陰齋王都、陰齋王府、陰齋王庁

岩崎純一氏が考案した寿羅穂里阿文明の王都、王府、王庁。陰齋王都の中に陰齋王府があり、さらにその中に陰齋王庁があるが、人々はとくに王都と王府を慣用的に入れ替えて使うことも多いという設定です。

齋の筆頭巫女である陰齋王が神の依代として神座する陰齋王殿を中心に据えています。建物（神殿・本殿）は陰齋王の住居そのものであり、現実に岩崎氏とご友人の自閉症者男性の皆さまが考案した「武蔵幻想邸」をこれに充てています。

神道真我奥義（しんとうしんがおうぎ）

岩崎純一氏がおもに『岩崎式日本語大全』で提示した、真我世界に基づくアニミズム・汎霊説的世界観と、それに伴う言語文法は、私たちの現実の巫女神道と仮想の寿羅穂里阿神道にも転用できる奥義であることを示した用語。つまり、岩崎氏が提示したものは、真我概念を用いての日本神道の奥義であると私たちは見えています。

寿羅穂里阿シャーマニズム

寿羅穂里阿文明・神道におけるシャーマニズムの名ですが、現実の太平洋島嶼部、日本、朝鮮半島などに残るシャーマニズムとほとんど同様の定義です。

ただし、寿羅穂里阿文明の巫女たちは、現実の近現代日本の巫女たちとは異なり、今なお託宣能力に極めて長けた齋の巫女（シャーマン）そのものであると設定しています。寿羅穂里阿シャーマン（＝陰齋王をはじめとする巫女たち）は、沖縄のユタや東北のイタコに近い存在だということです。

寿羅穂里阿式脱魂・憑依

現実の神道学や精神病理学（私たちの社家の神職を含む岡山県の神職の安易な見解も含む）では、齋の巫女の変性意識体験の説明様式は二元的（脱魂か憑依か）ですが、私たちは、「神懸り体験とは神々と私たちの身体との間にあるものであり、どちらがどちらにも憑き、どちらがどちらからも抜けている状態をいう」と定義し、これを寿羅穂里阿神道および岩崎式言語体系の根本的なアニミズム原理「寿羅穂里阿式脱魂・憑依」と設定します。

【批判】霊界・天界

寿羅穂里阿神道および岩崎純一氏が考案なさっている岩崎式言語体系が実在しない場所と考えているものの典型。「前世・現世・来世、極楽・浄土・あの世・仏国土」の項に対応します。

岩崎氏の異世界観（現代の浄土真宗が主張する極楽浄土のような異世界は存在しないという宗教観）は、私たち齋の巫女の託宣儀式（巫女舞・憑依など）の考え方に共通するものですが、岩崎氏は岩崎式日本語の使用女性たち（あの世で生まれ変わりたいと願っている暴力被害女性や精神障害女性の皆さま）に対し、このような異世界の不在をことさらに強く主張する傾向にあります。

（来世で救われたいという願いは、仏陀や龍樹が批判した煩惱その

ものであり、被害体験を現世で乗り越えようとする努力の諦めでもあり、岩崎式日本語の哲学に合わないということ。）

岩崎式言語体系は、言語哲学や文法理論としてこのことを記述した思想体系になっています。岩崎氏の場合、中観・唯識思想や曹洞禅を基盤としており、心身二元論や、死後における異世界への移動、地球上への再来（生まれ変わり）信仰に対する批判は、かなり徹底したものとなっているため、浄土教系・スピリチュアル系の信者の方は、岩崎式言語体系に触れることそのものに注意が必要であると私たちは考えます。

岩崎氏や私たちが共感覚や神託状態で人の身体現象・死期や自然災害情報を一足飛びに検知できる身体を持っているのは、霊界や天界の神仏を降ろしているからではなくて、実際に微妙な化学物質や電磁波動の変化を察知できる身体を持っているからです。神社や寺に祀ってある神仏を強く思うように、人や自然を鋭く観察しているにすぎないわけで、科学的行為の究極の姿（未来の科学）であるにすぎないと見ることができるようで、

「霊界や天界があつて、そこにアマテラスなどの神々がいらつしやるのだから、その神々に思いが通じるように神社参拝をしなさい」という趣旨を説明する神職や巫女は、本来の日本神道やアニミズムから逸脱してしまつていると見てよいと思います。

教派神道教団「寿羅穂里阿教」（きょうはしんとうきょうだん・すらぼりやきょう）

現実の日本の明治期に、国家が主導する国家神道とは別枠で組織された教派神道に、寿羅穂里阿神道も組み込まれていたものと仮定したときの教団名。

文化庁の『宗教年鑑』が定める分類（復古神道系、山岳信仰系、純教祖系など）においては、仮に「縄文神道（太古神道）」なる分類があつて、ここに寿羅穂里阿教が分類されたと仮定しています。

巫女禁断の舞返し（みこきんだんのまいがえし）

国学の発展により巫女神道が軽視され、明治の年、巫女の神懸り体験・憑依・託宣などの意識変容を伴う巫女の祭祀・儀式全般が、最終的に下記のとおり禁止された（通称「巫女禁断令」）が、これに伴い、巫女神道を守るために陰斎王やほかの寿羅穂里阿の巫女らが行ったと私たちが仮定している反政府運動。この時期の陰斎王たちは、自ら「舞返陰斎王」を名乗っているものと創作しています。

梓巫市子並憑祈禱孤下ケ等ノ所業禁止ノ件

明治六年一月十五日

教部省達第二号

府 県

従来梓巫市子並憑祈禱孤下ケ杯卜相唱玉占口寄等之所業ヲ以テ人民を眩惑セシメ候儀自今一切禁止候条於各地方官此旨相心得管内取締

方厳重可相立候事

寿羅穗里阿祝詞（すらぼりやのりと）

現実の近現代日本の祝詞が、神職資格を有する男性による奉納型の祝詞であるのに対し、寿羅穗里阿神道では、現実の古代日本の祝詞の姿である「のりとごと」（宣之言・宣処言・宣呪言）の形式、つまり、陰齋王、巫女たちが氏子たち、市井の人々に宣り下す、神々と一体型の神託文化の形を保っているとは仮定しています。

現実の神社神道への私たちの問題提起として創作しているもので、現実には男性神職が日本古語で読み上げて奉納しますが（感覚的なことは何も起きません）、寿羅穗里阿祝詞は、陰齋王や巫女たちが岩崎式日本語で唱えて神と一体化し、託宣を下すのです。

第一神典、第一神託、岩崎式言挙げ（ことあげ）、岩崎式神道大意、『新生巫女言大全』、『かむなぎのことのすべてのこころ』

私たち巫女神道としての寿羅穗里阿神道から見た、『岩崎式日本語大全』のこと。

『岩崎式日本語大全』は、実際に転換性障害、身体化障害、解離性障害、不安障害、PTSD、強迫性障害など、岩崎氏とかかわりのある皆さま、とくに女性たちの間で、「なぜ今自分は傷ついていて、大学や仕事を休んでいるのかなどを、自我の成り立ちから説明してくれ

るもの」として、秘伝のバイブルのように読まれました。

私たちもそれを受け継ぎつつ、ただし単に熱狂的にバイブル化するのではなく（神道にはそもそも、聖書やコーランのような「正典」「聖典」や仏教の「経典」に当たるものは存在しない）、アニメズム宗教における神典という位置づけで、中心に置かせていただくことにしています。岩崎氏ご自身が神や教祖として精神障害女性たちを陰で救ったというより、岩崎氏ご自身もまた神託を受けたかのように岩崎式言語体系を思いつき構想された、ということを強調する意味があります。

超然巫女神道

岩崎純一氏は、岩崎式日本語や寿羅穗里阿文明について、よく「現実の言語学や日本社会・日本文明から超然とする」という趣旨のことと、つまり、自然言語の無為自然で中立的な観察だけをするという趣旨のことをおっしゃいます。私たちがこれにならない、私たちの現実の巫女神道と寿羅穗里阿巫女神道が現実の日本社会に対して超然巫女神道の立場として動いているとは仮定しています。

つまり、明治期の国教（大教院傘下）としての神道や国家神道、齋の巫女の祭祀を伴わない皇室神道、神職資格を有する男性による奉納型の祝詞・祭祀を中心とする神社神道、八百万の神々を万物創造主に見立ててスピリチュアル・ニューエイジ系の主張をしている旧教派神道などの教えから、私たちの巫女神道は超然とする、とい

うことです。

ただし、たとえば村上重良氏や小室直樹氏の国家神道批判のすべてに納得しているわけでもありません。

寿羅穂里阿神道本庁

寿羅穂里阿文明および寿羅穂里阿神道の本部のこと。ただし、祭政一致の女系女子文明であるという設定のため、日本の政府（行政府）と神社本庁とを合わせた機構と言えます。

陰齋王庁とほとんど同義とも言えます。

寿羅穂里阿型祭政一致（寿羅穂里阿型神権政治）

寿羅穂里阿文明において行われていると私たちが設定・創作している、祭政一致の神権政治のこと。

神権による祭祀と政治の一体化という特徴に加え、本国（日本国）の事実上の国語（日本語）とは異なる独自の言語（岩崎純一氏の岩崎式日本語）によって祭祀や政治、ひいては文明そのものを運営する文明体制を指すものと設定しています。

岩崎式日本的靈性論

岩崎純一氏もよく挙げていらっしやるように、「日本的靈性」とい

う言葉は鈴木大拙の著名であり、生涯を通じて使われます。

そこで、岩崎氏の岩崎式日本語および寿羅穂里阿文明に目を転じますと、これらの発案・設計そのものが、私たち日本神道に親しんで生きる巫女としては、岩崎氏の日本的な靈性、多神教的・汎靈的世界観によるものであると感じます。岩崎氏が達観され、この哲学言語や文明論に込めておられる日本の靈性を、「岩崎式日本的靈性」と名づけることといたします。

【事典】寿羅穂里阿仏教の用語

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十四日 公開

二〇一七年九月四日 最終更新

寿羅穂里阿仏教

岩崎純一氏が考案された仮想文明「寿羅穂里阿文明」で展開される仏教。同じく氏が考案された人工言語「岩崎式日本語」は、仏教哲学概念を多用した哲学言語となっています。

これに対し、岩崎式日本語によって託宣する巫女集団を有する、

仮想文明「寿羅穂里阿文明」で展開される巫女神道が、寿羅穂里阿神道です。

岩崎式仏性（ぶっしょう）、岩崎式覚正（かくしょう）、岩崎式本覚（ほんかく）、岩崎式実相（じっそう）

岩崎純一氏が岩崎式日本語を考案なさったり、ご自身の共感覚で事物・物事や人間をご覧になっている（認識なさっている）ときに言わんとされている本質を、私たちが岩崎氏を拝見して名づけたものです。これまでの交流史のところにも書きました。

私たち巫女神道側では、岩崎氏による「日本語における人称の不在や遍在への気づき」が仏性への気づきとして理解されます。その方式を「岩崎式仏性」と呼んでいます。

ただ、岩崎氏は、このような仏性や実相そのものが岩崎式日本語で言う「空我」によって達観されるべきものであるとしており、岩崎式仏性もまた「空」であることになると私たちは見えています。

寿羅穂里阿密教（岩崎式密教、岩崎式金剛乗）、岩崎縁覚（えんがく）、岩崎独覚（どっかく）

岩崎純一氏の岩崎式言語体系・哲学全般の性質を「密教」になぞらえて名づけたもの。

実際には、岩崎氏多くの言語学・哲学的解説（いわば「頭教」の

性質）を公開していらっしゃいますが、その体系は大変に難解であり、まるで秘密仏教のようであることから、私たちとしてはこのように呼ぶことがあります。

また、岩崎氏がこの体系を独力で生み出したこと、また、巫女や精神障害女性を狭く選りすぐって言語体系を教え、弟子と言える状況でもあることから、岩崎氏の孤高の学問の姿を「岩崎縁覚（えんがく）」や「岩崎独覚（どっかく）」と呼んでいます。

岩崎式修験道

岩崎純一氏が岩崎式言語体系を生み出した（生み出し続ける）修行僧のような苦行と、その体系についての私たち第三者による学習・研究の修行のような苦行を、修験道になぞらえて述べたもの。

私たちの巫女神道における山岳信仰の秘儀（神奈備山や磐座での巫女舞など）の一部は、仏教とよく習合しており、難解な仏教哲学を基盤とする岩崎式言語体系を私たち齋の巫女の山岳信仰からとらえたものでもあります。

岩崎曼茶羅

岩崎式言語体系そのものや『大全』の視覚的・共感覚的な理路整理とした美しさを、岩崎式密教が説く諸仏集会（しゅうえ）の楼閣である「曼茶羅」に見立てたもの。

岩崎式中観（ちゅうがん）、岩崎式唯識、岩崎式法相（ほっそう）

岩崎純一氏考案の岩崎式言語体系のロゴマークは、『成唯識論』などが提示する唯識思想を視覚的に表現したのですが、まず、「岩崎式唯識」、「岩崎式法相」とは、岩崎氏の思想を唯識思想と見たとき
の呼び方です。岩崎式言語体系では「識我」の世界に当たります。

次に、「岩崎式仏性（ぶっしょう）」でも定義したように、「岩崎式唯識」の本質に岩崎式仏性を見ている私たちのかりそめの自己（識）もまた最終的には「空」（岩崎式言語体系の用語では「空我」、「空格」となるので、岩崎氏の哲学・人間学の本質は、最終的には「岩崎式中観」であることとなります。

このように、岩崎式言語体系の空我世界では、仏教の「中観」や「中道（マディヤマー・プラティパッド）」の悟りがひらかれているとされます。ただし、もちろん中観は岩崎氏にとっても視覚的に描けないもので、視覚化可能なのは「識我」の世界からですので、岩崎式言語体系のロゴマークは唯識の図となっているのです。

岩崎式黙照看話禪（もくしょうかんぜんぜん）

岩崎式言語体系の本質を説く『岩崎式日本語大全』の緻密な解説（まるで臨済宗などの看話禪のような性質）は、考案者の岩崎純一氏が基礎とするニーチェ哲学のアフォーリズムや曹洞宗の黙照禪と一

見矛盾しています。しかし、その解説の「真我」による理解は、読者自身の只管打坐によってしか得られないものであることに変わりはないため、「看話黙照禪」と言葉を重ねたものです。

この項は、寿羅穂里阿神道としては、「岩崎式言拳秘伝」の項に対応するものです。

【批判】前世・現世・来世、極楽・浄土・あの世・仏国土

岩崎純一氏および氏の生み出した岩崎式言語体系が「実在しない」と規定・想定または強く断言しているものの典型です。いわゆる死後や生前の世界の実在性は、岩崎式言語体系では厳しく否定されます。厳密には「現世」も含みます。寿羅穂里阿神道では、「霊界・天界」の記事に相当します。

ここでの「あの世」は、「極楽浄土」を意味する場合と、六道の「天界・天上界・天部」を意味する場合がありますが、岩崎氏はどちらも実在としてはあり得ないとして、原始仏教的な哲学言語体系を組み立てています。

岩崎氏の異世界観（現代の浄土真宗が主張する極楽浄土のような異世界は存在しないという宗教観）は、私たち齋の巫女の託宣儀式（巫女舞・憑依など）の考え方に共通するものですが、岩崎氏は岩崎式日本語の使用女性たち（あの世で生まれ変わりたいと願っている暴力被害女性や精神障害女性の皆さま）に対し、このような異世

界の不在をことさら強く主張する傾向にあります。

（来世で救われたいという願いは、仏陀や龍樹が批判した煩惱そのものであり、被害体験を現世で乗り越えようとする努力の諦めでもあり、岩崎式日本語の哲学に合わないということ。）

もちろん岩崎氏は、岩崎式日本語は日本の法制度・日本国憲法の範囲内で運用するしかないと定めていらっしやいますので、この言語のご使用にあたり信教の自由は保障されていますし、「あの世で生まれ変わりたい」、「次は別の親から生まれたい」、「二度目の誕生後は別の夫と結婚したい」などと願っている暴力被害女性や精神障害女性にこそ、表向きの使用者が多いのはたしかです。

しかし実際には、死後や生前の異世界の物理的存在を信仰する浄土教系（とくに現代の浄土真宗）の国民やスピリチュアリスト、多くの教派神道系教団（天理教、黒住教、金光教など）の信者の方には、岩崎式日本語は扱いにくく、その思想世界とは最終的にはまったく相容れない傾向にあります。

【事典】寿羅穂里阿文明の用語の補足

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十六日 公開

二〇一七年八月十七日 最終更新

岩崎式日本語大学 巫女学部、心描真我女子学園 巫女科

もとは岩崎式日本語の使用女性の皆さま（社交不安障害、解離性障害、PTSDなど）が、理想の大学や学園として寿羅穂里阿文明の中に創作した教育機関です。（心描真我女子学園には、大学、高校、中学があります。）

私たちは、これらの場をお借りし、それぞれに巫女学部と巫女科を設置しています。

違いとしては、岩崎式日本語大学の巫女学部は、生まれつき言語能力が高く託宣や歌向きの巫女の養成機関、心描真我女子学園の巫女科は、巫女舞・水中神事などの無言・片言の秘儀向きの巫女の養成機関と設定しています。

記述の書、現出の書

元々、寿羅穂里阿文明における「記述の書」と「現出の書」の定義（岩崎式言語体系ペディアにあります）は、岩崎式日本語を使用されている精神障害の女性の皆さまがお作りになったものです。暴力や虐待、パワハラのない理想の世界を書物に書き、あとは決められた魔法（岩崎式日本語の言葉）をかけるだけでその世界が実現できるといえるのです。岩崎式日本語のマニュアル（大全など）を記

述の書として用いることもできます。

私たち巫女（寿羅穂里阿神道の創作者）からしますと、現実の『古事記』や『日本書紀』がまさに記述の書にピッタリですし、卑弥呼が唱えた鬼道の呪文などが現出の言葉に当たるといふ設定がよいと思っと思っています。ただ、これだと時代がズレすぎているので、本当は、伊勢や賀茂の斎王の託宣の言葉を現出の言葉にしたいのですが、早い時期から形骸化していた斎の巫女ですから、設定しにくいのです。もちろん、卑弥呼の時代には文字があったのかどうか怪しいですから、記述の書にあたるものは存在していなかったでしょう。

一方で、寿羅穂里阿神道では、現在も実効性の高い現出の言葉が残っているという設定です。もちろん、現代科学や、いずれ登場する未来科学で説明できる現象のみを現出させます。たとえば、岩崎氏の共感覚（電磁波を聞いたり音波を見たりできるなど）や、私たちの巫女舞や託宣和歌（一定のパターンで舞ったり一定の音で和歌を詠むと、近くにある植物の成長が速くなるなど）などがそれです。

【事典】岩崎式日本語の新用語の提案

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十六日 公開

二〇一七年九月四日 最終更新

（二〇一八年七月十五日追記…現在、リンク先の岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

岩崎の法則

『第四期岩崎式日本語大全』とその別添資料や続編で主張されている、岩崎純一氏による日本語・外国語の自然法則の総称。事実上、大野晋などの言語学者の学説（大野の法則など）や、「真我点灯係り結び法則（岩崎式係り結びの法則）」の記事でも紹介した本居宣長の学説などを含みます。私たちが岩崎氏に名称を提案し、岩崎氏が最終的に採用されたものです。

例えば、「上古日本語では、一人称単数の人称代名詞に終止形用言がつくときは、その代名詞は絶対格であるが、時代が下るにつれて、能格が付き、やがて主格主語となる」、「漢語熟語は自動詞から他動詞に変遷する（回転する↓回転させる）」など。

岩崎氏は事実上、大野晋や本居宣長の学説を包含する形で、『大全』のほか、以下の和歌批判のブログ記事などの中で、「真我点灯係り結び法則」を含む「岩崎の法則」を唱えています。

◆自分の芸術への態度を自分で説明する能力について（和歌を例に）
<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/58425160.html>

従って、現代日本人が古語をまねて和歌を詠んだり擬古文を作成する際に、それらが意図せず「岩崎の法則」||「日本語の自然な法則」を破っている場合、作者が古語・古文・漢籍を勉強していないことが岩崎氏には容易にわかるということでもあります。

また、私たち斎の巫女の神事における神託現象（ある種の転換性ヒステリー）では「岩崎の法則」||自然言語の自然現象がなぜか正しく再現されていることをも、岩崎氏は発見されています。私たちの創作している寿羅穂里阿神道では、この岩崎の法則に沿った岩崎式日本語を話し、この言語によって託宣することとしています。

人称遍在接続（岩崎接続）

岩崎純一氏による人称代名詞に対する分析（人称の遍在性）に基づく、人称語とそれ以降の語の接続の方式や文法観のこと。岩崎式日本語にて採用されています。私たちが名称をいくつか提案し、岩崎氏が最終的に採用されたものです。

例えば、

「私が書く。」（現代の東京標準語の終止形。）

「私の書く。」（古語の終止形。現在は使う人がほとんどいない。）

について、

「私が書いた字は、く」（現在も使われる。）
「私の書いた字は、く」（現在も使われる。）

が成り立ちます。これは、岩崎氏が唱えている日本語の法則である「岩崎の法則」の一つとしても示されました。

（||「ある自然言語文の主体の動作を表す用言が終止形でないとき、その主体の主格の性質は属格や能格に遡及する可能性がある。」という法則）

このとき、現在の国語学は、

「私が書いた字は、く」（私が）はまず「書く」にかかる。
「私の書いた字は、く」（私の）はまず「書く」にかかる。）

と考えますが、岩崎式日本語では（岩崎氏は）、

「私が書いた字は、く」（私）の自己||真我が文脈全体に遍在して「私が書いた」と「私が（わが）字」の両方を日本語という現象界に現出している。）

「私の書いた字は、く」（私）の自己||真我が文脈全体に遍在して「私の書いた」と「私の字」の両方を日本語という現象界に現出している。）

と考えます。従って、このようなフレーズに「人称代名詞」の文法範疇を見出す態度そのものが反日本語的であるとされます。つまり、「私」は「書く」や「字」に対して遍在接続しているという言い方をします。

このような岩崎氏の哲学や日本語学への理解が、岩崎式日本語への理解そのものなのです。そして、このような岩崎氏の日本語感覚は私たち斎の巫女の現実の巫女神道・アニミズムの心と共通している、とするのが、私たちの考え方です。

岩崎式波羅蜜（はらみつ、はらみつた）

仏教の「波羅蜜」すなわち「到彼岸」の概念を、岩崎純一氏が生み出した岩崎式言語体系のうち、おもに「言（げん）」の文法概念に適用したものの。

岩崎氏によれば、用言の活用は「主体の満足性や努力性の程度」によって生じたもので、常観言および通観言（心描言、抽化言、抽出言）は、六波羅蜜や十波羅蜜の修行の苦行度に相当するものだと、私たちはとらえています。

真格発動大我（しんかくはつどうたいが）、真我縁起

大乘仏教では「真我」や「大我」は同じ意味で用いられますが、

岩崎式言語体系では、文法用語として「真我」があり、「真格」を表出・発動させる「真我」全般をあえて強調する際に「大我」と呼ぶことを提案します。

「具我」や「及我」といった岩崎式言語体系独自の用語については、使用者の見解の相違が小さいですが、「真我」の解釈には現在でも違いが見られます。「真格発動大我」は、岩崎式言語体系の「真我」を、大乘仏教の「真我」や「大我」と照らし合わせることに、それらに裏打ちさせることを目的として提案する概念です。

岩崎氏が提案している「巨帯自我」（極端に大きな自己意識）は、この文脈で言えば大乘仏教の「小我」にあたり、「真我」や「大我」の悟りとは異なるため、注意が必要です。

また、「発動」とは大乘仏教の「縁起」に近く、真我の縁起によって認識世界（言語の対象）が生じることを、私たちは「真我縁起」と名づけることとします。

「真格発動大我」は、「岩崎式無自性」、「岩崎式人法二無我」とかわりがあります。

岩崎式無自性、岩崎式人法二無我

岩崎純一氏が考案した岩崎式言語体系の「文法」の「法」は、「法則」や「規則」よりも、「仏法」の「法」に近い意味を持ったため、そのことを明確にするために私たちが提案する用語です。

これらは、岩崎式言語体系の「真格発動大我」の「大我」が悟つ

ている、あらゆる実体の「空」性のことです。人の自我（人我）もその他の実体（法我）も自性を持たないことを指しており、岩崎式言語体系では、このことはまず「識我」以降の我によって意識されますが（唯識）、のちにそれさえも「空我」によって無自性とされま

す。
岩崎式言語体系についての岩崎氏による解説そのものも、岩崎氏の「識我」から「主我」までの我によって行われていますが、岩崎氏自身が、解説そのものも本来は「空我」による「空格」性を持つべきこと（岩崎式言語体系そのものも、また無自性であるべきこと）を唱えています。

自らの言語理論さえも最後には無自性であるとする徹底した考えは、やや岩崎氏の曹洞禅びいきの禅感覚（弁舌を重視する臨済禅との対比）が反映されているものと思われま

す。
このような「無自性」や「人法二無我」を悟るものとして私たちが提案している概念が、「真格発動大我」です。

真我点灯係り結び法則（岩崎式係り結びの法則）

岩崎式日本語において、主体に付く助詞の全ては「係助詞」と分析でき、従って、終止形を含む全ての用言の活用形は「係り結び」の結果である、また、係り結びの法則は「強意」ではなく「自我の点灯」である、とする岩崎純一氏の国語観と、そのように分析可能な法則のこと。

岩崎氏によれば、「ぞ」、「なむ」、「や」、「か」（以上は結びが連体形）、「こそ」（結びが已然形）に限らず、全ての主体の助詞は同時に係助詞であり、「前四つが弱い強意で、“こそ”が強い強意や逆接である」とする従来の国語学もやや誤りであるとしています。

本居宣長らによる江戸時代以来の以下の学説は、『大全』全体で岩崎氏によって明らかにされた岩崎式係り結びの法則の一部として包含されることになります。

●主体が「は」、「も」、「徒（無標識）」をとる場合、結びは終止形になる。

←「徒」は、岩崎式日本語の絶対格に当たる。

●主体が「が」、「の」をとる場合、結びは連体形となる。

●上古代に遡るほど、「こそ」の結びについては已然形と連体形が混在している。

岩崎氏は事実上、これらの本居宣長の学説を包含する形で、『大全』のほか、以下の和歌批判のブログ記事などの中で、「真我点灯係り結び法則」を唱えています。

◆自分の芸術への態度を自分で説明する能力について（和歌を例に）

<https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/58425160.html>

岩崎式日本語和歌・歌道（寿羅穂里阿和歌・歌道）

岩崎式日本語によって詠まれる和歌と、その歌道。岩崎純一氏は日本語での和歌もお詠みであり、私たちもそれを踏まえ、岩崎式日本語世界における和歌活動を提案させていただきました。

岩崎式日本語書道

岩崎式日本語の書道。日本語道一派に当たると仮定しています。

岩崎式言語体系概念の本地垂迹（権現）

巫女及び岩崎純一

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月十四日 公開

二〇一七年八月十四日 最終更新

岩崎式言語体系・岩崎式日本語にすでにある概念の本地垂迹の試みです。

左辺が岩崎純一氏による元の文法用語、右辺が私たち巫女神道か

ら岩崎氏に提案し使用している本地垂迹用語です。

【注】私たちが岩崎氏の言語世界に見ている「言霊」は、濁音の「コトダマ」で、神道霊学や言霊学の清音の「コトタマ」ではございません。

岩崎式日本語 ISReJP^{*} ISReJA^{*}：新生巫女言（しんせいみこのこと）、かむなぎのこと、新やまことのは、巫女アラヤ、岩崎式巫女精神言語、純一（じゅんいつ）日本語

『岩崎式日本語大全』：第一神典、第一神託、岩崎式言挙げ（ことあげ）、岩崎式神道大意、『新生巫女言大全』、『かむなぎのことのすべて（このころ）など』

我 Ga：|| 言霊我（げんれいが）、コトダマノワ

Ga(SHIN)：|| 真我：|| 真言霊我（しんげんれいが）、真言魂我（しんげんこんが）、マコトノコトダマノワ

Ga(KU)：|| 空我：|| 空言霊我（くうげんれいが）、空言魂我（くうげんこんが）、ソラノ（ムナシキ）コトダマノワ

Ga(ZEN)：|| 前我：|| 前言霊我（ぜんげんれいが）、前言魂我（ぜんげんこんが）、マエノコトダマノワ

Ga(GI)：|| 擬我：|| 擬言霊我（ぎげんれいが）、擬言魂我（ぎげんこんが）、ナゾラエノコトダマノワ

Ga(SHO)：|| 初我：|| 初言霊我（しよげんれいが）、初言魂我（しよげんこんが）、ハツノコトダマノワ

Ga(KUSHIKD) ꝯ空識間我：ꝯ空識言靈我（くうしきげんれいが）、
空識言魂我（くうしきげんこんが）、ソラヨリシルマデノコトダマ
ワ

Ga(SHIKD) ꝯ識我：ꝯ識言靈我（しきげんれいが）、識言魂我（しき
げんこんが）、シルコトダマノワ

Ga(SHIKI-GU) ꝯ識具間我：ꝯ識具言靈我（しきぐげんれいが）、識
具言魂我（しきぐげんこんが）、シリテヨリソナエルマデノコトダ
マ
ノワ

Ga(GU) ꝯ具我：ꝯ具言靈我（ぐげんれいが）、具言魂我（ぐげんこ
んが）、ソナエルコトダマノワ

Ga(GU-KYU) ꝯ具及間我：ꝯ具及言靈我（ぐきゅうげんれいが）、
具及言魂我（ぐきゅうげんこんが）、ソナエテヨリオヨブマデノコト
ダ
マノワ

Ga(KYU) ꝯ及我：ꝯ及言靈我（きゅうげんれいが）、及言魂我（き
ゅうげんこんが）、オヨブコトダマノワ

Ga(KYU-KI) ꝯ及希間我：ꝯ及希言靈我（きゅうきげんれいが）、及
希言魂我（きゅうきげんこんが）、オヨビテヨリノゾムマデノコトダ
マ
ノワ

Ga(KI) ꝯ希我：ꝯ希言靈我（きげんれいが）、希言魂我（きげんこ
んが）、ノゾムコトダマノワ

Ga(KI-NO) ꝯ希能間我：ꝯ希能言靈我（きのうげんれいが）、希能言
魂我（きのうげんこんが）、ノゾミテヨリアタウマデノコトダマノワ
Ga(NO) ꝯ能我：ꝯ能言靈我（のうげんれいが）、能言魂我（のうげ

んこんが）、アタウコトダマノワ

Ga(NO-I) ꝯ能意間我：ꝯ能意言靈我（のういげんれいが）、能意言
魂我（のういげんこんが）、アタイテヨリオモウマデノコトダマノワ
Ga(I) ꝯ意我：ꝯ意言靈我（いげんれいが）、意言魂我（いげんこ
んが）、オモウコトダマノワ

Ga(I-KATSU) ꝯ意活間我：ꝯ意活言靈我（いかつげんれいが）、意
活言魂我（いかつげんこんが）、オモイテヨリイカスマデノコトダ
マ
ノワ

Ga(KATSU) ꝯ活我：ꝯ活言靈我（かつげんれいが）、活言魂我（か
つげんこんが）、イカスコトダマノワ

Ga(KATSU-SHU) ꝯ活主間我：ꝯ活主言靈我（かつしゅげんれいが）、
活主言魂我（かつしゅげんこんが）、イカシテヨリアルジ（ヌシ）マ
デノコトダマノワ

Ga(SHU) ꝯ主我：ꝯ主言靈我（しゅげんれいが）、主言魂我（しゅ
げんこんが）、アルジ（ヌシ）ノコトダマノワ

Ga(SHU-I) ꝯ主我 1：ꝯ第一主言靈我（だいいちしゅげんれいが）、
第一主言魂我（だいいちしゅげんこんが）、ヒトツメノアルジ（ヌシ）
ノコトダマノワ

Ga(SHU-2) ꝯ主我 2：ꝯ第二主言靈我（だいにしゅげんれいが）、第
二主言魂我（だいにしゅげんこんが）、フタツメノアルジ（ヌシ）ノ
コトダマノワ

Ga(SHU-3) ꝯ主我 3：ꝯ第三主言靈我（だいさんしゅげんれいが）、
第三主言魂我（だいさんしゅげんこんが）、ミツツメノアルジ（ヌシ）

- ノコトダマノワ
- Ga(SHU4) ；主我 4：；第四主言霊我（だいにんしゅげんれいが）、第四主言魂我（だいにんしゅげんこんが）、ヨツツメノアルジ（ヌシ）ノコトダマノワ
- Ga(SHU5) ；主我 5：；第五主言霊我（だいにんしゅげんれいが）、第五主言魂我（だいにんしゅげんこんが）、イツツメノアルジ（ヌシ）ノコトダマノワ
- Ga(SHIN)-Con ；真我連続体：；真言霊我連続神体（しんげんれいがれんぞくしんたい）、真言魂我連続神体（しんげんこんがれんぞくしんたい）、マコトノコトダマノワガツラナルカミノ（依代）ヨリシロ
- Evo(SHIN) ；真我進化、真我エボリューション：；真言霊我進化（しんげんれいがしんか）、真言魂我進化（しんげんこんがしんか）、マコトノコトダマノワガスミ
- Ret(SHIN) ；真我遡及、真我レトロアクション：；真言霊我遡及（しんげんれいがそきゅう）、真言魂我遡及（しんげんこんがそきゅう）、マコトノコトダマノワガサカノボリ
- Promo(SHIN) ；真我昇階、真我プロモーション：；真言霊我昇階（しんげんれいがしょうかい）、真言魂我昇階（しんげんこんがしょうかい）、マコトノコトダマノワガノボリ
- Demo(SHIN) ；真我降階、真我デモーション：；真言霊我降階（しんげんれいがこうかい）、真言魂我降階（しんげんこんがこうかい）、マコトノコトダマノワガクダリ
- Land(SHIN) ；真我踊り場滞留、真我ランディング：；真言霊我踊り場滞留（しんげんれいがおどりばたいりゅう）、真言魂我踊り場滞留（しんげんこんがおどりばたいりゅう）、マコトノコトダマノワガトドマリ
- 格詞 KA：；霊詞（れいし）、魂詞（こんし）、タマコトバ、タマノコトノハ、ヒコトバ、ヒノコトノハ
- KA ；格詞：；同上
- 格 Cases：；言霊（げんれい）、コトダマ、コトノヒ、コトノタマシイ
- ZE, ZET, ZETTAI ；絶対格：；絶対言霊（ぜったいげんれい）、絶対言魂（ぜったいげんこん）、タエテムカウコトダマ
- SHIN ；真格：；真言霊（しんげんれい）、真言魂（しんげんこん）、マコトノコトダマ
- KU ；空格：；空言霊（くうげんれい）、空言魂（くうげんこん）、ソラノ（ムナシキ）コトダマ
- ZEN ；前格：；前言霊（ぜんげんれい）、前言魂（ぜんげんこん）、マエノコトダマ
- GI ；擬格：；擬言霊（ぎげんれい）、擬言魂（ぎげんこん）、ナヅラエノコトダマ
- SHO ；初格：；初言霊（しよげんれい）、初言魂（しよげんこん）、ハツノコトダマ

- KU-SHIKI Ⅱ空識間格：Ⅱ空識言靈（くうしきげんれい）、空識言魂（くうしきげんこん）、ソラヨリシルマデノコトダマ
- SHIKI Ⅱ識格：Ⅱ識言靈（しきげんれい）、識言魂（しきげんこん）、シルコトダマ
- SHIKI-GU Ⅱ識具間格：Ⅱ識具言靈（しきぐげんれい）、識具言魂（しきぐげんこん）、シリテヨリソナエルマデノコトダマ
- GU Ⅱ具格：Ⅱ具言靈（ぐげんれい）、具言魂（ぐげんこん）、ソナエルコトダマ
- GU-KYU Ⅱ具及間格：Ⅱ具及言靈（ぐきゅうげんれい）、具及言魂（ぐきゅうげんこん）、ソナエテヨリオヨブマデノコトダマ
- KYU Ⅱ及格：Ⅱ及言靈（きゅうげんれい）、及言魂（きゅうげんこん）、オヨブコトダマ
- KYU-KI Ⅱ及希間格：Ⅱ及希言靈（きゅうきげんれい）、及希言魂（きゅうきげんこん）、オヨビテヨリノゾムマデノコトダマ
- KI Ⅱ希格：Ⅱ希言靈（きげんれい）、希言魂（きげんこん）、ノゾムコトダマ
- KI-NO Ⅱ希能間格：Ⅱ希能言靈（きのうげんれい）、希能言魂（きのうげんこん）、ノゾミテヨリアタウマデノコトダマ
- NO Ⅱ能格：Ⅱ能言靈（のうげんれい）、能言魂（のうげんこん）、アタウコトダマ
- NO-I Ⅱ能意間格：Ⅱ能意言靈（のういげんれい）、能意言魂（のういげんこん）、アタイテヨリオモウマデノコトダマ
- I Ⅱ意格：Ⅱ意言靈（いげんれい）、意言魂（いげんこん）、オモウコトダマ
- I-KATSU Ⅱ意活間格：Ⅱ意活言靈（いかつげんれい）、意活言魂（いかつげんこん）、オモイテヨリイカスマデノコトダマ
- KATSU Ⅱ活格：Ⅱ活言靈（かつげんれい）、活言魂（かつげんこん）、イカスコトダマ
- KATSU-SHU Ⅱ活主間格：Ⅱ活主言靈（かつしゅげんれい）、活主言魂（かつしゅげんこん）、イカシテヨリアルジ（又シ）マデノコトダマ
- SHU Ⅱ主格：Ⅱ主言靈（しゅげんれい）、主言魂（しゅげんこん）、アルジ（又シ）ノコトダマ
- SHU1 Ⅱ主格1：Ⅱ第一主言靈（だいいちしゅげんれい）、第一主言魂（だいいちしゅげんこん）、ヒトツメノアルジ（又シ）ノコトダマ
- SHU2 Ⅱ主格2：Ⅱ第二主言靈（だいにしゅげんれい）、第二主言魂（だいにしゅげんこん）、フタツメノアルジ（又シ）ノコトダマ
- SHU3 Ⅱ主格3：Ⅱ第三主言靈（だいさんしゅげんれい）、第三主言魂（だいさんしゅげんこん）、ミツツメノアルジ（又シ）ノコトダマ
- SHU4 Ⅱ主格4：Ⅱ第四主言靈（だいにしゅげんれい）、第四主言魂（だいにしゅげんこん）、ヨツツメノアルジ（又シ）ノコトダマ
- SHU5 Ⅱ主格5：Ⅱ第五主言靈（だいにしゅげんれい）、第五主言魂（だいにしゅげんこん）、イツツメノアルジ（又シ）ノコトダマ
- SHIN-Con Ⅱ真格連続体：Ⅱ真言靈連続神体（しんげんれいれんぞくしんたい）、真言魂連続神体（しんげんこんれんぞくしんたい）、マコトノコトダマツラナルカミノ（依代）ヨリシロ

CS : 真格交替 : 真言靈交替 (しんげんれいこうたい)、真言魂交替 (しんげんれいこうたい)、マコトノコトダマガワリ

Pre : プレ格 : 先言靈 (せんげんれい)、先言魂 (せんげんれい)、サキノコトダマ

Post : ポスト格 : 後言靈 (こうげんれい)、後言魂 (こうげんれい)、ウシロ (アト) ノコトダマ

EgoMA : 格配列出力関数 : 言靈配列出力関数 (げんれいはいれつしゅつりよくかんすう)、言魂配列出力関数 (げんれいはいれつしゅつりよくかんすう)、コトダマナラビイダス (神座) カミノクラ、コトダマナラビイダス (神境) カミサカ

言語 Langs : 言語、コトガタリ、カタリ

SHIN-L : 真格言語 : 真言靈語 (しんげんれいご)、真言魂語 (しんげんれいご)、マコトノコトダマガタリ

KU-L : 空格言語 : 空言靈語 (くうげんれいご)、空言魂語 (くうげんれいご)、ソラノ (ムナシキ) コトダマガタリ

ZEN-L : 前格言語 : 前言靈語 (ぜんげんれいご)、前言魂語 (ぜんげんれいご)、マエノコトダマガタリ

GI-L : 擬格言語 : 擬言靈語 (ぎげんれいご)、擬言魂語 (ぎげんれいご)、ナヅラエノコトダマガタリ

SHO-L : 初格言語 : 初言靈語 (しよげんれいご)、初言魂語 (しよげんれいご)、ハツノコトダマガタリ

KU-SHIKI-L : 空識間格言語 : 空識言靈語 (くうしきげんれいご)、

空識言魂語 (くうしきげんれいご)、ソラヨリシルマデノコトダマガタリ

SHIKI-L : 識格言語 : 識言靈語 (しきげんれいご)、識言魂語 (しきげんれいご)、シルコトダマガタリ

SHIKI-GU-L : 識具間格言語 : 識具言靈語 (しきぐげんれいご)、識具言魂語 (しきぐげんれいご)、シリテヨリソナエルマデノコトダマガタリ

GU-L : 具格言語 : 具言靈語 (ぐげんれいご)、具言魂語 (ぐげんれいご)、ソナエルコトダマガタリ

GU-KYU-L : 具及間格言語 : 具及言靈語 (ぐきゅうげんれいご)、具及言魂語 (ぐきゅうげんれいご)、ソナエテヨリオヨブマデノコトダマガタリ

KYU-L : 及格言語 : 及言靈語 (きゅうげんれいご)、及言魂語 (きゅうげんれいご)、オヨブコトダマガタリ

KYU-KI-L : 及希間格言語 : 及希言靈語 (きゅうきげんれいご)、及希言魂語 (きゅうきげんれいご)、オヨビテヨリノゾムマデノコトダマガタリ

KI-L : 希格言語 : 希言靈語 (きげんれいご)、希言魂語 (きげんれいご)、ノゾムコトダマガタリ

KI-NO-L : 希能間格言語 : 希能言靈語 (きのうげんれいご)、希能言魂語 (きのうげんれいご)、ノゾミテヨリアウマデノコトダマガタリ

NO-L : 能格言語 : 能言靈語 (のうげんれいご)、能言魂語 (のう

げんこんご)、アタウコトダマガタリ

NO-I-L: ii 能意間格言語: ii 能意言靈語 (のういげんれいご)、能意言魂語 (のういげんこんご)、アタイテヨリオモウマデノコトダマガタリ

I-L: ii 意格言語: ii 意言靈語 (いげんれいご)、意言魂語 (いげんこんご)、オモウコトダマガタリ

I-KATSU-L: ii 意活間格言語: ii 意活言靈語 (いかっげんれいご)、意活言魂語 (いかっげんこんご)、オモイテヨリイカスマデノコトダマガタリ

KATSU-L: ii 活格言語: ii 活言靈語 (かっげんれいご)、活言魂語 (かっげんこんご)、イカスコトダマガタリ

KATSU-SHU-L: ii 活主間格言語: ii 活主言靈語 (かっしゅげんれいご)、活主言魂語 (かっしゅげんこんご)、イカシテヨリアルジ (又シ) マデノコトダマガタリ

SHU-L: ii 主格言語: ii 主言靈語 (しゅげんれいご)、主言魂語 (しゅげんこんご)、アルジ (又シ) ノコトダマガタリ

SHU-I-L: ii 主格言語 1: ii 第一主言靈語 (だいいちしゅげんれいご)、第一主言魂語 (だいいちしゅげんこんご)、ヒトツメノアルジ (又シ) ノコトダマガタリ

SHU-2-L: ii 主格言語 2: ii 第二主言靈語 (だいにしゅげんれいご)、第二主言魂語 (だいにしゅげんこんご)、フタツメノアルジ (又シ) ノコトダマガタリ

SHU-3-L: ii 主格言語 3: ii 第三主言靈語 (だいさんしゅげんれいご)、

第三主言魂語 (だいさんしゅげんこんご)、ミッツメノアルジ (又シ) ノコトダマガタリ

SHU-4-L: ii 主格言語 4: ii 第四主言靈語 (だいよんしゅげんれいご)、第四主言魂語 (だいよんしゅげんこんご)、ヨッツメノアルジ (又シ) ノコトダマガタリ

SHU-5-L: ii 主格言語 5: ii 第五主言靈語 (だいごしゅげんれいご)、第五主言魂語 (だいごしゅげんこんご)、イツツメノアルジ (又シ) ノコトダマガタリ

言 Gen: ii 次言 (じげん)、接言 (せつげん)、継言 (けいげん)、次言・接ぎ言・継ぎ言 (ツギコト)

G: ii 言: ii 同上

Gb, b: ii 心描言: ii 心描次言 (しんびようじげん)、ココロエガクツギコト

Gk, k: ii 抽化言: ii 抽化次言 (ちゅうかじげん)、バケルツギコト
Gs, s: ii 抽出言: ii 抽出次言 (ちゅうしゅつじげん)、イズルツギコト

Gm, m: ii 未然言: ii 未然次言 (みぜんじげん)、イマダシカラヌツギコト

Gi, i: ii 已然言: ii 已然次言 (いぜんじげん)、スデニシカルツギコト

燈詞 TO: ii 燈詞、トモシビコトバ

TO: ii 燈詞: ii 同上

我燈 GATO : || 我燈、ワガトモシビ

Ga : || 我燈 : || 同上

GaD・Ga♂ : || 男我燈 : || 男我燈、オトコノトモシビ

GaJ・Ga♀ : || 女我燈 : || 女我燈、オンナノトモシビ

GaM・GaM♀ : || 巫女燈 : || 巫女燈、シコノトモシビ

GaK : || 神燈 : || 神燈、カミノトモシビ

GaH : || 仏燈 : || 仏燈、ホトケノトモシビ

Ga(1/1) : || 単我燈 : || 単我燈、ヒトツ (ヒトエ) ノワガトモシビ

Ga(1/m1) : || 複我燈 : || 複我燈、フタツ (フタエ) カラノワガトモシビ

MetaGa(n·mn) : || 超我燈 : || 超我燈、コエルワガトモシビ

MetaGa(1/1, 2/1, …, n/1) : || 超単我燈 : || 超単我燈、コエルヒトツノワガトモシビ

MetaGa(1/m1, 2/m2, …, n/mn) : || 超複我燈 : || 超複我燈、コエルフタツカラノワガトモシビ

Ga[1/(Ga(1-1)+ Ga(1-2)+ …+ Ga(1-m1))+ …+ n/(Ga(n-1)+ Ga(n-2)+ …+ Ga(n-mn))] : || 多我燈 : || 多我燈、アマタノワガトモシビ

我名詞 GaN : || 我名詞、ワガナノコトバ

GaN : || 我名詞 : || 同上

文 Se : || 文、フシ、(岩崎式) 神靈文

Se : || 文 : || 同上

Se(1/1) : || 単我燈文 : || 単我燈文、ヒトツ (ヒトエ) ノワガトモシビ

ノフシ

Se(1/m1) : || 複我燈文 : || 複我燈文、フタツ (フタエ) カラノワガトモシビノフシ

MetaSe(n·mn) : || 超我燈文 : || 超我燈文、コエルワガトモシビノフシ

MetaSe(1/1, 2/1, …, n/1) : || 超単我燈文 : || 超単我燈文、コエルヒトツノワガトモシビノフシ

MetaSe(1/m1, 2/m2, …, n/mn) : || 超複我燈文 : || 超複我燈文、コエルフタツカラノワガトモシビノフシ

Se[1/(Ga(1-1)+ Ga(1-2)+ …+ Ga(1-m1))+ …+ n/(Ga(n-1)+ Ga(n-2)+ …+ Ga(n-mn))] : || 多我燈文 : || 多我燈文、アマタノワガトモシビノフシ

Se(N-KOTO) : || 「コト」文 : || 「コト」文

Se(N-MONO) : || 「モノ」文 : || 「モノ」文

Se(C-JPa-TO) : || 「ト」文 : || 「ト」文

Se(N-KOTO→φ), Se(N-KOTO-E) : || 「コト」抜き文 : || 「コト」抜き文

Se(N-MONO→φ), Se(N-MONO-E) : || 「モノ」抜き文 : || 「モノ」抜き文

Se(C-JPa-TO→φ), Se(C-JPa-TO-E) : || 「ト」抜き文 : || 「ト」抜き文

Se(N-KOTO∨∧φ), Se(N-KOTO-L-E) : || 「コト」半抜き文 : || 「コト」半抜き文

ト」半ば文

Se(N-MONO \vee \wedge ϕ), Se(N-MONO-L-E) := 「キ」半ば文 := 「キ
ノ」半ば文

Se(C-JPa-TO \vee \wedge ϕ), Se(C-JPa-TO-L-E) := 「ト」半ば文 := 「ト」
半ば文